

キヤノン株式会社

2022年12月期 決算説明会【主なQ&A要約】

Q1. プリンティングの足元の環境認識と成長戦略について教えてほしい。

A1. プロシューマーは在宅需要のピークアウトはあるものの、第4四半期の売上は回復しており、今後も一定の需要は続いていくと見ている。オフィス複合機は、緩やかな減少傾向ではあるが、高い製品力でシェアを高めていく。成長市場である商業・産業印刷分野については積極的に投資を行うことでプリンティング全体の売上を伸ばしていく考えである。

Q2. 2022年の国内生産比率が対前年で下がっている理由は何か。

A2. 2022年の比率の低下はプロダクトミックスによる一時的なものであり、特別な政策上の理由があるわけではない。今後も生産の国内回帰を進めていく。

Q3. 様々なコストの上昇がキヤノンの今年の業績に与える影響について教えて欲しい。

A3. 今年もインフレの傾向が続くと見られるが、物流や部品などのさらなるコストアップはないと考えており、業績に与える影響は昨年と大きくは変わらないものと想定している。

Q4. 2022年実績の売上・利益ともに前回計画未達となった理由を教えて欲しい。

A4. 年末にかけて為替が想定していたレートに対して円高に振れたこと、逼迫部品の改善が想定より進まなかったこと、中国のゼロコロナ政策の混乱で半導体露光装置などの設置が遅れたことが主な要因である。

Q5. 2023年度の配当の水準をどう考えているか。

A5. 長期的な配当性向は50%以内と考えており、2022年は50%となっている。現時点では不確定要素が多いが、2023年についても同じ考え方に基づいて配当額を決定していく。